

経営比較分析表（令和2年度決算）

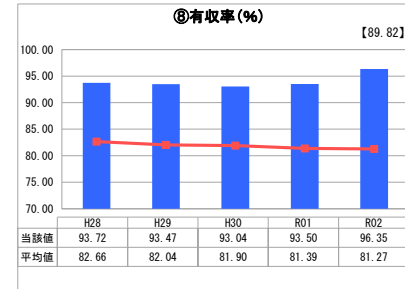
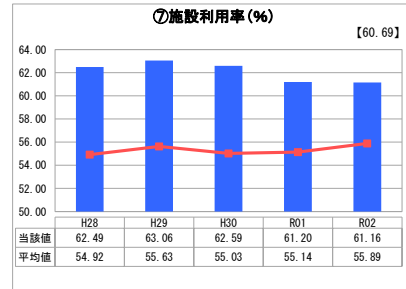
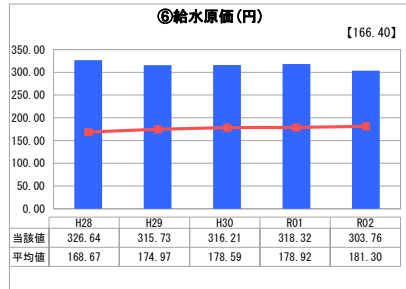
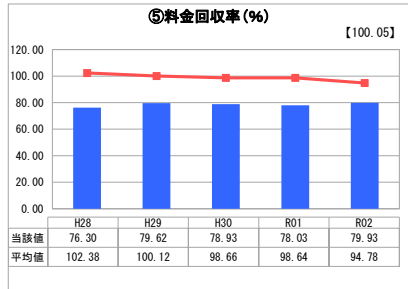
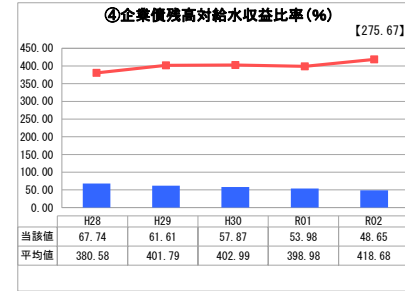
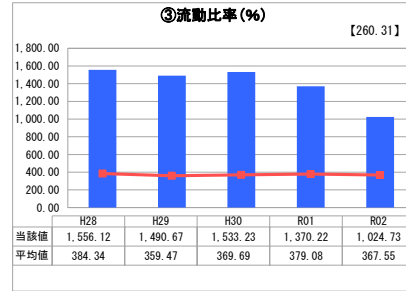
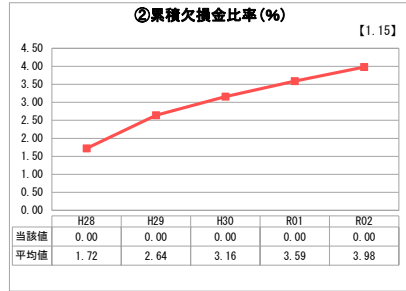
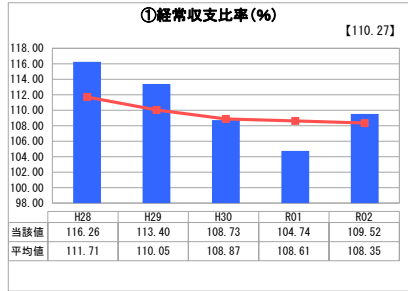
千葉県 印西市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	89.94	17.16	3,960	

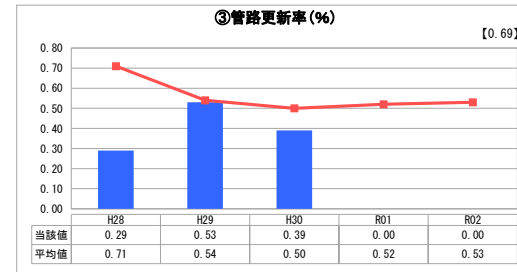
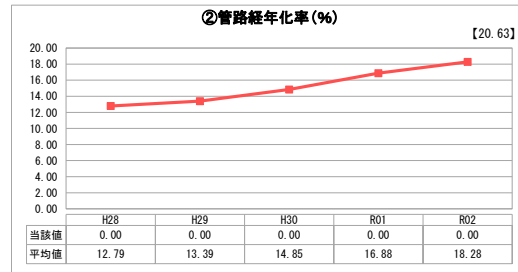
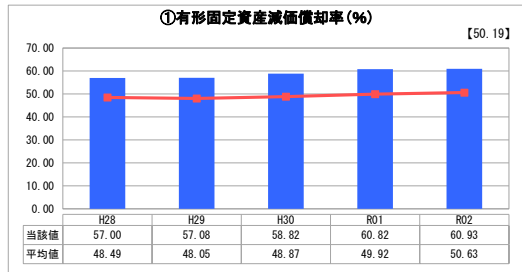
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
105,772	123.79	854.45
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
17,780	11.17	1,591.76

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

印西市水道事業は、印旛広域水道からの受水の割合が高く、高額なため、受水費の経営に与える影響が非常に大きくなっており、給水原価が高くなっている。

一方、印西市内には、当市営水道の他に県営水道、長門川水道企業団の2事業体があり、水道料金の差が大きくなりやすいような料金単価としているため、供給単価は給水原価を大きく下回り、料金回収率が低い。

これを埋めるため、市から高料金対策の補助金を受け、経常収支比率は100%付近を保っている。

企業債残高対給水収益比率は、新たな企業債の借入がなく、また償還も進んでいることから、類似団体と比較し、低い数値で推移している。

2. 老朽化の状況について

水道事業としては、供用開始が昭和57年と比較的に後発であるため、全体的には老朽化は深刻ではない。

全体総括

印西市内には、当市営水道の他に2事業体があり、水道料金の差が大きくなりやすいような料金単価としているため、類似団体と比較して料金回収率が低い。

また、水道の大口需要者が、水道と井水を併用している状況が続く限り、給水収益の改善は難しいので、今後とも経営の効率化に努める必要がある。

現在は、管路の更新需要は高くないが、今後の更新については実状に合った計画を作り進めていきたい。